

洪水・台風・豪雨とのたたかい

摂津市域は洪水に悩まされてきた地域です。川は堤防で流路を固定化されると、どんどん天井川になっていきます。上流の開発も洪水の危険を増大させます。そのことで、川底を掘り下げたり、堤防を高くしたり、屈曲部分を直川化したりと、さまざまな努力が積み重ねられてきました。淀川だけでなく安威川や大正川、山田川も、今見られる川の姿は先人たちの苦勞の集積の結果なのです。

また、台風や干ばつ、集中豪雨などの自然災害ともたたかい続けてきました。



明治 29 年「見天切れ」時の堤防での避難生活
鳥飼西の見天で淀川堤防が切れる。同時に安威川の堤防も寸断され、大洪水となる。避難生活は 2 か月近くも続いたらしい



大正 6 年「大塚切れ」堤防復旧工事

高槻市大塚の淀川堤防をはじめ、芥川・安威川・神崎川などが各所で決壊し、淀川右岸は尼崎方面まで濁流に満たされた。淀川洪水史上でも屈指の大災害となる。家や橋は流され、農作物は全滅し、全国から救援物資が寄せられた



**昭和 28 年「13 号台風」洪水
堤防上の避難生活航空写真**

9 月 25 日、台風による大雨で鳥飼の淀川堤防が決壊寸前となる。村人による決死の補強工事が徹夜で行われる間、上流の芥川等が決壊し洪水となる。堤防上には避難小屋のテントが並び村役場兼水防本部テントもあった



舟で避難する人々

昭和 28 年台風 13 号の洪水時



淀川堤防かさ上げ工事（大正14年）

明治以降、淀川の改修は何度もくり返されたが、特に大正6年「大塚切れ」の大災害の後、大規模な改修工事が始まり、何年も続けられた



大正川誕生（昭和2年）

暴れ川だった丑寅川の直川化工事などで、大正川が造られた



室戸台風で倒壊した味舌小学校校舎

昭和9年9月21日、強風で倒れた二階建て校舎の下敷きとなって、児童5名が死亡、20名が重軽傷を負う。鳥飼小学校でも校舎倒壊1名死亡



段倉

大事な物を洪水から守るため高い石垣の上に作られた倉

思い出語り

大塚切れは私が子どもの頃です。お風呂に入っていたら、急に水が家の中に入ってきて、あわてて堤防の上に上げてもらいました。それから大勢の人と堤防暮らしです。家は流れる牛は流れるで大変でした。

室戸台風のときはすごい風が急にやってきたのです。朝、登校し始めていた子どもたちは、校舎を飛び出して山田川の堤防の内側に避難したのです。ところがその日は学校貯金の日で、持ってきたお金を教室に置いたままなのを思い出した子どもたちが、何人も取りに戻ったのです。そのとき、校舎が倒れたのです。

13号台風の時のことは忘れられません。淀川堤防に上がってみて驚きました。川幅いっぱい広がった水が手を伸ばせば届くほどに増えていて、堤防が地鳴りしているんです。堤防の土は足がめり込むほどぐずぐずになっているんです。そこで、堤防が切れないように長い柱を打ち込むのですが、手だけでズブズブと入ってしまいます。恐ろしさに震えました。